

鎌田

かまだ たかお

高 雄

さん



▲水色の《ヤマセミねっと》のジャケットを着用しながら、調理帽子をきちんとかぶる鎌田さん。穏やかな笑顔の中にも職人気質が見え隠れします。

■ 事業は、利用者が遠慮なく依頼できるよう、30分程度で250円という料金設定／申込・詳細は、
千歳市社会福祉協議会へ
☎(27)2525 ☎(27)2528

プロフィール

■ 鎌田 高雄 (かまだ たかお) さん / 78歳 / 新富在住 / 三笠市出身 / 37歳で千歳に転入し、10年程度市内でラーメン屋を経営。 / 50歳代では地域の民生委員を務める。 / 平成30年6月に《暮らしのちよつと応援サービス(ヤマセミねっと)》の協力者に登録。

千歳市社会福祉協議会が独自に実施している助け合いの活動《暮らしのちよつと応援サービス(愛称・ヤマセミねっと)》。

高齢者や障がいのある方、介護・子育て家庭を対象に、電球の交換やゴミ出しなど、生活のちよつとした困りごとを支援する、このボランティア活動による事業は、平成30年7月の事業スタートから、9か月間で協力者数55人、延べ利用件数77件の実績となっております。当初から事業の趣旨に賛同し、協力者の1番手として、計13回のサービスを提供してきた鎌田さんにお話しを聞きました。

● 鎌田さんのおもな支援の内容は
「ラーメン屋をやっていたこともあり、今でも調理職は天職だ

と自負していますので、《食》という身近で大切な支援をさせていただいています。

小学生以下の子ども4人を抱える家庭で、親の体調が良くないときの調理支援をしました。料理を提供するのではなく、依頼者と一緒に活動することが事業の目的です。2回目の支援のときは、1番上の子と私がハンバーグをこねてつくり、2番目の子をご飯を炊きました。そしてみんな一緒に食卓を囲んだとき、「こんなおいしいハンバーグ初めて食べた!」との声が出まわってね…。調理師として、たまらない気分でしたよ。」

● 支援活動の時間は
「衛生管理にも責任はありますから、つくり始めから、後片付け

福祉活動《ヤマセミねっと》を見つめる調理師の心眼
「支援に年齢は関係がなく、心を込めることで自分へと帰ってくる喜びがある。」



まで、1時間以内で終わるようにしています。そこにある食材とフライパンを使い、その場で注文が出されるわけですから、調理師には、腕の見せ所ですよ(笑)。」

● 今後も支援を続けますか

「私も78歳ですが、支援するごとに年齢は関係ないと思うのです。障がいのある方が支援する側になったっていいんですよ。人と対話し、その人が求める支援に合致したときに、何ともいえない感謝の気持ちがおみ上げてくるものです。大切なのは《心を込める》こと。モノづくりをする人は皆そうですが、例えば「子どもたちのために」と思いつくったものに、当人たちから「すごくおいしい」と喜んでもらえたとき、その一言

が《やみつき》になるのです。心を込めることで自分へと帰ってくる喜びがある。この事業は、そういう事業だと思えます。私は調理師とはいっても、食の世界は広いですから、もっともっと勉強したいと思っていますし、今後は力口リー(特に脂分)が足りていない高齢者への調理など、同じ仲間を増やししながら、支援の幅も広がっていきたくと考えています。」



飽くなき探究心を持ち、「自分の味に完成をみたことはない」と語る鎌田さん。しかし、あの小学生には、鎌田さんと一緒につくり、家族と食したハンバーグの味は、《心を込めた完成品》として、いつまでも記憶に残ると思います。